

腱を移植する事で手の骨のバランスを維持する方法ですが移植腱がずれたり、吸収されたりするため現在はあまり行われておりません。

- 5) 手根骨固定術: 陥没変形が進行した場合に行われます。壊死に陥った部位が陥没し手の骨のバランスが崩れる前に周囲の骨と固定し一つの骨にしてしまう方法です。痛みが取れるのが最大の利点ですが手の動きが悪くなるのが欠点です。

このようにそれぞれ一長一短があり、また病気の進行度(ステージとって、4段階に分類するものが用いられています)によって適切な治療法が変わります。あなたの進行度はステージ3であり、上記の1)あるいは2)の治療法が適応となる状態です。いずれの方法でも壊死骨内では骨再生能力が低いために骨組織再生には長い時間がかかり、かつその範囲は限定されています。

4. 新しい治療法の内容とこの臨床試験の目的について

今回計画した治療法は、この問題を改善するために、ステージ3の月状骨壊死に対して現在、有効とされている血管柄付骨移植術に加えて、骨組織を造る能力のある細胞と人工骨(移植した細胞が骨になることを助ける医療材料で、1999年より販売が開始され、既に多数の患者さんに使用されて良好な骨の再生と安全性が確認されている材料です)を移植する治療法です。移植する細胞は、間葉系幹細胞と呼ばれる細胞です。

間葉系幹細胞とは、骨髄に存在し、骨、軟骨、脂肪、神経、筋肉を形成する細胞に変化(=分化)する能力をもつ細胞で、骨折などの外傷の際には損傷部に集積し、骨組織を再生するとされています。しかしながら、ごくわずかしか(骨髄中の細胞の0.01%)存在していませんので、月状骨壊死の治療に用いるためには、

